

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「個人の尊重」「持てる力を引き出す」「地域社会の中でのふれあいを大切に」を基本に健康で生き生きとした暮らしの継続を支援すると定めています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりが把握しておらず、時間的余裕のなさを理由に取り組むことを出来ていないです。	○ 理念を見える場所に掲示し、職員一人ひとりが理念を理解、実施に向けて取り組めるようにしていきます。また、カンファレンス等で取り上げ、職員一人ひとりが理解、取り組めるように努めます。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には、計画時に説明し地域住民への交流を取り組んできているも、十分な浸透までは出来ていません。	○ 家族や地域住民の人達と話し合う機会を設けては、理念の話が出来るようにしていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域交流が図れるよう慰問や行事には近隣住民や町内会の人達にも声をかけ、参加してもらっています。また、ボランティア実習生等の受入れをしています。	○ 今後も、積極的に参加し運営推進会議などで役立つことがないか話し合い、働きかけをしていきたいです。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価にて指摘されたことをすぐに実行、改善へと取り組んでいます。	○	評価結果にて足りない部分を職員全員へ連絡し、話し合いを持ち改善へと今後も取り組んで行きたいです。
6 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、開催し、評価への報告、話し合いをしています。そこでの意見をサービスの向上にいかせるよう検討、実現に努めています。	○	今後も、持続しながら施設サービスの質の向上に繋げていきたいと思っています。
7 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者への相談や情報交換でご指導頂いてサービスの質の向上に取り組んでいます。		
8 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、理解をしているものの職員全員にまでには制度に関する理解までは浸透していません。必要があれば活用できるよう資料、パンフレットの用意をしています。	○	勉強会を開き、制度についての仕組み等を学び、必要な人に支援できるようにしていきたいです。
9 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成、利用者の表情・言動・行動に細心の注意を払い、職員全員にて話し合いを持ち、防止へと繋げています。また、利用者にとって最善の方法を考え取り組んでいます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書に添って説明し、家族・利用者等からの要望を聞きいれながら、行っています。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と一対一になった際、コミュニケーションを通じて意見や要望、苦情に対する訴えを引き出しています。その訴えを会議開催し、意見等について職員全体で検討し、検討した結果を今後の取り組みへと繋げています。	○  取組みをした結果を経過記録し、利用者にとってどのように反映したのかを再度会議開催し質への向上へと繋げていきたいです。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時には、利用者の近況報告しています。また、家族には二カ月に一度近況報告する手紙を送付しています。ホームにて金銭管理をしている利用者には台帳をつけ、月初めに家族と残高照会をし確認を頂いています。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時の文章に意見、苦情の受付窓口を記載しています。投書箱への投入はなく、家族が不満や苦情・意見が述べられるよう日常のコミュニケーション、面談で意見交換し改善へと取り組んでいます。	○  苦情や不満・意見等を職員全員へ連絡、会議を開き反映できるよう話し合いをしています。
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者との話し合いの機会を持ち、個々に聞き入れをしています。会議やミーティング等で一人ひとりの意見が述べられるようにし、意見を聞き入れては反映できるよう取り組んでいます。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者に最大限のケアができるよう職員数を確保、調整をしています。また、施設行事、外出時の付き添い等、必要時出勤できる人員を確保、いつでも調整出来るようしています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
18	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
19	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
20	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアプラン作成時には家族からの要望や相談を聞く機会を設け、利用者とは居室内等周囲に他者がいないことを考慮し聞くようにしています。	○  家族とケアプラン以外にも聞く機会を設け、今後に繋げるよう努めていきます。
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けては、すぐに会議を開催し利用者の必要とするサービス提供と見極め、実行するように努めています。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学、安心、納得の上で利用して頂くよう努めています。またその都度家族と話をし、利用者が安心して生活が送れるよう工夫に努めています。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を家族として接し、喜怒哀楽はもちろん相互を必要とした関係を形成しています。料理の味付けや作り方を教わったりしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族との考えに相互の意見の食い違いが生じてしまう場合があります。そのため、利用者に対して支援が出来ない場合があります。	○	職員と家族との信頼関係を形成し、一緒に利用者 を支援できる関係を築いていきます。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時には、本人の状況を説明しては少しでも本人の現状を理解した上で関係が築けるよう支援しています。また、ホーム行事に家族も参加して頂くことにより、より良い関係が形成出来てきています。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から利用している理髪店や理容店を継続利用しています。しかし、昔なじみの人達と日が経つにつれ疎遠がちになってしまいます。	○	疎遠にならないよう心掛け、代筆や電話の活用にて関係を継続出来るよう支援していきます。
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの性格を把握し、孤立しないよう職員が相互の間に入り交流を図れるよう支援しています。		一人ひとりの気持ちを把握した上で利用者同士の人間関係が築けるようフォローしながら支援しています。
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院に入院された時は、お見舞いに行き励まし、付き合いを継続できるようにしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用開始前に聞き入れしています。今までの生活が崩れないよう本人の意向や家族から聞き、取り入れるようにしています。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中でコミュニケーションを図りながら、情報収集をし把握、記録しています。また家族からも利用者の生活歴等について、情報収集を行なっています。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で、状態変化に気に掛けながら現状把握しています。また、申し送りや介護支援専門員により情報収集しています。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしい生活ができるよう、カンファレンスにて話し合いをしています。また、家族からその都度要望を聞き入れ、よりよいケアを提供出来るよう介護計画を作成しています。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一回を見直し期間とし評価を実施しています。また、利用者の状況により対応困難が生じた場合本人の現状に必要なとするケアプランの見直し、変更へと作成しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個々に記録し、ケアの中で気付いた点を職員全員が把握できるよう連絡簿への活用をしています。職員全員が情報を共有しています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望があれば、通院や外出、美容、理容の支援をしています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の意向に応じて、文化機関の活用を行っています。また、安心・安全に暮らせ雨量町内交番や消防署には協力を得られるよう働きかけをしています。	○	施設自ら地域活動に参加し、交流を活発に行なっています。
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険更新時に担当ケアマネジャーと話し合う機会を設けるなどの連携を図っています。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性がある場合の対応は、地域包括支援センターとの連携を図れていません。	○	今後地域包括支援センターとの情報交換を積極的に行ない、連携に努めていきます。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を議ながら、適切な医療が受けられるよう支援しています。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医と連携を持ち、必要に応じた医療機関への受診が出来るよう支援しています。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員と看護師相互が些細なことでも相談・助言できる様連携を図っています。また、意思や看護師との情報交換、提供などを通して健康管理に努めています。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との情報交換をに密にし、早期退院が出来るよう努めています。また、本人・家族が退院後も安心して過ごせるよう相談に努めています。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族が希望する内容を話し合い、かかりつけ医と連携を取りながら共有していきたいです。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の希望に沿えるよう医療との連携を図りながら、職員で検討し取り組んでいきたいです。	○	利用者がより良く暮らせるために、出来るケアを提供します。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族に関わる関係者間で十分な話し合いや意見交換を行うこととしています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
47 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、オムツ交換や衣類交換等の言葉かけや対応を職員間で注意を払いながら配慮し努めています。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の状態に合わせた対応に心掛け、本人の希望や思いを表せるよう引き出しては、自己決定ができる様支援しています。また、意思表示困難な利用者の表情や態度を理解・把握へと努めています。		
49 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間帯によっては、職員の都合を優先してしまい利用者のペースを崩すことがあります。しかし利用者のその日の状況を把握し、支援できるよう努めています。	○	時間帯の都合によっては、利用者の希望通りに出来ない事を前以て伝えるようにしていきます。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者個々の希望の沿った理髪店や理容店を利用しています。また、利用者個々と話し合いながら本人の希望を尊重した衣類選択をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事を摂り、食事準備を出来る範囲内にて利用者と一緒に行なうようにしています。また、食事後の後片付けを当番制にて行なっています。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好物を把握し、要望時には提供できるようにしています。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的にトイレ誘導することにより、一人ひとりの排泄パターンを記録・理解しています。その事により、少しずつ自立出来るよう支援しています。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	受診日を避けた日を入浴日とし、利用者同士の間関係を考慮しながら楽しく入浴ができる様支援しています。また、本人の要望によって入浴日以外にも要望があった際には、聞きいれ対応するようにしています。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人のペースの合わせ、体調変化に応じて環境を整え休息を取り入れ安心出来るよう支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりとコミュニケーションを通して知り得た楽しみや役割を提供し、持てる力を引き出せるよう支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る利用者には個人の金庫を活用した金銭所持をしています。また、本人希望者や金銭管理困難な利用者にはホーム管理とし個人台帳へ記載を明確にしています。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の身体状況や状態、気分転換も兼ねて近隣の散策やドライブ外出へと支援しています。	○	利用者一人ひとりへの支援がまだ出来ておらず、戸外へ外出する機会には近隣を散策し四季折々を感じ、楽しめるよう支援していきます。
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者とのコミュニケーションの中にて以前良く出掛けていた場所等を聞き出し、ホーム行事にて検討・計画し実現出来るよう支援しています。また、家族への参加を呼びかけ一緒に外出しています。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誰にでも電話掛けられる位置に設置しており、本人の要望に応じるよう支援しています。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	開放的な雰囲気を保ち、気軽に訪問できるよう心掛けをしています。また来訪時には、笑顔での挨拶を徹底して行なっています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が理解をし、利用者に身体拘束を行わず大切なケアに取り組めるよう話し合っています。また、身体拘束をやむを得ず行う場合家族への説明・納得にて取り組み、経過記録を残す体制をしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	急変時への対応が出来ておらず、定期的に訓練の実施へと努めていきます。
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状況変化に応じ職員間にて話し合い、適宜に見直しを行っています。また、利用者の現状を家族へ報告し、利用者一人ひとりに起こり得るリスクや対応策を説明し、了解を得ています。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調変化の早期発見に努め、速やかに家族・医師、看護師との連携を図り必要に応じては病院受診を行っています。また変化については介護記録し、職員間での申し送り・連絡簿記録にて共有し情報を強化しています。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの服薬は指示通り服薬しているが、一つひとつの薬剤の目的・副作用の理解は出来ていません。しかし、薬への変更時には速やかに職員全員が周知できるよう申し送り・連絡簿への記載を徹底しています。	○	薬状をただ綴じるのではなく、職員全員が周知出来るよう会議にて定義していきます。
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の排泄経過記録の中にて排便困難者を把握し、飲食物や飲水を工夫・強化しています。適宜な運動にて自然排便を促しています。下剤や浣腸等を使用している場合、かかりつけ医師への相談・指示にて行っています。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの能力に応じた援助を行ないながら、毎食後口腔ケアの実施をしています。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好物への提供を取り入れ、日々の摂取量を経過記録にて残すことにより総摂取カロリーを概ね把握しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	各種のマニュアルを作成し、感染防止の徹底をしています。感染発症の場合、勉強を開催、対応策を実施しています。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の手洗い、消毒を業務化し実施しています。毎晩、調理器具等は次亜塩素酸系にて付け置き消毒をしています。また、食中毒時期には感染予防マニュアルに沿って調理しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム周囲には季節折々の花々や木々を植えるなど誰でも出入り出来る雰囲気作りに努めています。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じ取れる花々を食卓や玄関等の共有空間へ生ける工夫を取り入れています。また、利用者が不快に思われる音へ配慮し居心地良く生活を送れるよう支援しています。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が気兼ねすることなく、相互に交流を図れるよう場の提供をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの愛用品を家族に持参してもら うよう依頼し、家庭環境との差を生じないよう工 夫しています。また、職員と利用者一人ひとり にて作成した品を本人と意向を聞きながら装飾し、 過ごしやすい空間へと工夫しています。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	定期的に換気を行ない、外気温との差が生じない よう気温に気をつけ調整を行っています。また、 ホーム内での臭いやだよみに気をつけ、空気清浄 機の設置や芳香剤にて不快な臭いにならないよ う努めています。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者一人ひとりの身体状況に合わせた居室作り に工夫しています。また全室をバリアフリーに し、要所に手摺りを設置することにより自由に動 けるようにしています。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者一人ひとりの居室には本人の目線に合わせ た名前を張り、ここに合わせた表示を付ける等 を取組んでいます。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	狭いスペースではあるが、敷地内に花壇や菜園を 作り、活動できるようにしています。また庭先 にはベンチを設置し、庭を眺めたり散策でき るようにしています。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)